

保育園における1歳児と2歳児の音楽的経験

長 沢 美 穂

(盛岡大学)

これまで、子どもたちの音楽行動について多くの研究や報告がなされてきた。藤田はその研究 “Problems of Language, Culture and The Appropriateness of Musical Expression in Japanese Children’s Performance”の中で、日本の子どもたちが日常生活の中で話し言葉に結びついた音楽的表現の形式を学習していることを説明している。音楽的表現の形式とは、「ひと呼吸で発声する言葉によって音響を構成する行為を規定している一定のルールであり、人々の音楽的表現の基礎的な単位は、その行動が起こったときの表現意欲の強さ、呼吸周期の長さ、日本語の音響的特性を変数として決定されるもの」である。(＃1)

筆者は、子どもたちがこの規則性にもとづいて音楽的成長を遂げているということに着目し、1989, 1993年本学会(＃3, 4)において幼稚園で観察された4歳児と5歳児の音楽行動について発表した。いずれの幼稚園においても子どもたちが毎日の生活のなかで話し言葉とも歌ともつかない中間の形式(たとえば、掛け声や合図、唱え言葉など)を豊富に用いてコミュニケーションを図っている姿が見られた。同時に、言葉をリズムカルに唱えながら日本語の音楽的側面や音楽的表現の形式を直感的に獲得している様子も、数多く観察された。

今回の観察は、岩手県盛岡市にある保育園での1歳児と2歳児の音楽行動についての報告である。これまで実施されたものと同じ方法で観察、分析を行って、年齢の低い子どもたちが日常生活のなかでどのような音楽行動をどのように持ち出しているのか、そして、子どもたちが音楽的表現の形式を学んでいく過程が、地域差、保育形態や規模の違いを越えてあらわれてくるのか、について報告するのが本研究の目的である。

【研究の方法】 岩手県盛岡市にある久昌寺保育園の1、2歳児クラス26名(1歳児11名、2歳児15名)の園児たちの音楽的経験のすべてを、毎週2～3回、約2か月間にわたって観察し記録した。観察期間は、観察期間は、1993年2月16日(火)～3月31日(水)で、合計9回の観察を行った。観察時間は園児の登園する午前7時30分から午睡までの5時間、またはめざめの午後2時30分から保育終了までの3時間(月～土曜日)に、子どものたちが経験した「音楽」と「中間形

式」のすべてをそれが起こった状況にしたがって記録する方法がとられた。記録は、筆記による記述のほかビデオ・テープによる録画を行った。

【久昌寺保育園について】 久昌寺保育園は岩手県盛岡市の市街地、八幡町に位置している。八幡神、松尾神社、久昌寺、大慈寺など寺社が多く緑が豊かである一方国道のそばで交通量が多い。総園児数は76名で教職員は15名。ひよこ組26名うち1歳児11名、2歳児16名の子どもたちは保育5～6名(保育補助員を含む)で保育にあたっている。保育時間は午前8時～午後4時。このほかに保護者の事情によって午前7時30分～午後6時まで延長できる。毎週水曜日は一堂に会して礼拝を守る。

【観察の結果】 記録された保育者と園児たちの音楽的活動の種類と、それらが起こった回数は次の表の通りである。

「資料1」久昌寺保育園に於いて園児たちが経験した音楽的活動の種類と回数

		音楽的活動の種類	保育者から与えられた 音楽的活動の回数		園児たちが自発的に持ち 出した音楽的活動の回数	
音楽	西洋 旋律の 歌や音 楽	1. 西洋旋律の歌や音楽によるリズムカルな 動き (リズム歌謡、行進、遊戯 etc.)	・ びじやわも	1	なし	0
		2. 西洋旋律の歌をうたう ・ 虫うたわねる歌 ・ 遊戯の歌 ・ 節歌謡の歌 ・ 手遊び etc.	・ 虫のパンツ ・ 手をたたきましょ ・ 雪のペンキやさん	3 3	・ ぞうさん ・ アンパンマンのうた ・ とんぼのめがね	1 3
		3. 西洋旋律を演奏する	なし	0	なし	0
		4. 西洋旋律の器楽的表現(B, G, M.)	なし	0	なし	0
	日本 歌謡や 民謡の 歌	5. 日本歌謡を演奏する	なし	0	なし	0
		6. 楽器遊び	・ 手をたたきましょ	1	なし	0
小 計			3 5		1 3	
中 間 形 式	長尺 の歌や 音楽を うたう	1. 長尺の歌や音楽をうたう ・ わらわえ ・ 定数歌のある歌謡 ・ 節歌謡の歌謡	・ もーいーか ・ まーあーした ・ けんこつひのたぬきさん	5	・ かいーてー、かいよ ・ こっさーてーあーい ・ かいーのあーい ・ もーいーか	4 5
		2. 掛け声	・ わっしょーいわっしょーい ・ びーんばら	5	・ わっしょーいわっしょーい ・ わっしょーい	2 2
	言葉 をリズ ミカル に唱え る	3. 挨拶	・ 手をたたく、ご一緒に いだけましょ	2 2	・ いっただきましょ ・ おーいよ	5
		4. 合図	なし	0	・ せーのーてっ ・ びーんばら	8
		5. その場の状況に合わせてリズムカルな 動き (呼び掛け、競争、遊戯 etc.)	なし	0	・ だーれかーにだーれかーに こーれあーせなーい だーめだーめだーめ	7 9
		6. 遊びのやみリズムカルな動き (競争、遊び返し、節歌謡のもの)	・ エンエンエン ・ おーいーいーいーいー ・ いーいーいーいーいー	5 2	・ バキューン ・ ごとんごとん ・ セーラムー	2 4 6
		7. 呼 名	・ みどやーん	1 0		1
		8. さ け び 声	なし	0	・ きー	8 2
		小 計		9 4		4 8 8
合 計			1 2 9		5 0 1	

注1 連続して現れた音楽行動を1回とする。

2 中間形式は、通常の話言葉とは異なり一定のリズム、あるいは一定のリズムと音高で唱えられる言葉と定義されている。

3 定着性のある唱え言葉とは、日本の文化や社会に定着した慣用句。

1. 保育者から与えられた音楽的活動

保育者が与えた「音楽」と「中間形式」の総数は、129回。そのうち「中間形式」は74%をしめている。保育室にはピアノはなく、与える「音楽」もすべて保育者の肉声と手拍子または簡単なリズム楽器によるものであった。保育室には簡単な仕切りが設けられており、必要に応じて年齢ごとに保育される。殊に1歳児に対しては、1対1の丁寧な保育が行われており、いつも子どもたちの応答を促すような明確なことばがけを行っていた。

2. 園児たちが自発的に持ち出した音楽的活動

(1) 子どもたちが持ち出した「音楽」と「中間形式」の総数は 501回。そのうち「中間形式」は97%をしめている。さらに「言葉をリズムカルに唱える」は 443回、90%をしめている。

(2) 子どもたちが持ち出したリズムカルな話し言葉の内容を知るために、藤田の分類にしたがって6項目に整理してみる。(＃2)

① 自分の気持ちを誰かに強く訴えようとする時、あるいは自分の気持ちを自分に言い聞かせる時：

1歳児 146回 2歳児 54回

② 何かをイメージして、そのものになったつもりで演ずる時：1歳児 49回 2歳児 42回

③ 身体の動きをまとめようとする時：1歳児 33回 2歳児 46回

④ 周囲のリズムカルな言動に刺激されて反応し、自らリズムカルな言動にまとめようとする時：

1歳児 32回 2歳児 21回

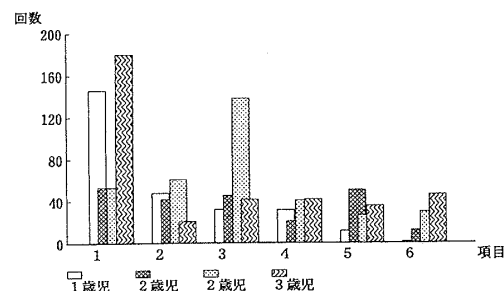
⑤ 調子の良い慣用句や語り調、伝承的なあそびの応答唱を使う：1歳児 12回 2歳児 51回

⑥ 聞き覚えた歌の一節を歌う：

1歳児 2回 2歳児 13回

分類の結果を＃2に発表されたデータと考察とに比較しながらまとめている。右のグラフはこれらの数量を項目ごとに並べたものである。

2歳児は、3歳児に比べてまだ言語の獲得の初期であることから、リズムカルに話す言葉は短く、もっぱら自分に言い聞かせたり、単に自己の情動を開放することに関わる行動が主である(＃2)としているが、



今回の観察でもこの傾向は顕著に現れている。(①②③は合わせて全体の70%) 気持ちいい、楽しい気持ちがブーブー、ヤイヤイの言葉や動きにまとめられる。しかし、1歳児においても④にまとめられた行動は少なくなかった。ベットベットベット、バブバブバブなど意味のない短い言葉の連なりがしっかりとした模倣で2～3人の子どものために連鎖的に繰り返される。意味のある言葉(だめ、いや)も言葉が音として捕らえて次第に一定の拍節にまとめられていく。子どもたちはその拍節のなかで、ある音節を強めたり動作(転がる、バンザイする)を加えたりして喜びを体中で表現する。

既製の歌の一節が持ち出されることは非常に少なかった(⑥)。⑤に数えられたものは、ここまでのようなごく短い言葉に限られた。このように、1～2歳の子どもたちも、相互に言葉をリズムカルに唱えて楽しみながら、音楽的な時間を積上げていくのである。

【引用文献】

＃1 Fumiko Fujita: Problems of Language, Culture and The Appropriateness of Musical Expression in Japanese Children's Performance Tokyo 1989 Academia Music LTD.

＃2 藤田 芙美子：保育の場に見られる音楽的表現活動 3歳児の音楽行動をめぐって 1992 日本保育学会第45回大会研究論文集

＃3 長沢 美穂：自由な遊びにおける「様式かされた話し言葉」 1989 本学会第42回大会研究論文集

＃4 : 幼稚園における4歳児と5歳児の音楽的経験 1993 本学会第46回大会研究論文集

【謝 辞】この研究は、盛岡大学文学部児童教育学科平成5年度卒業研究「保育園に於ける0歳児～2歳児の音楽的経験—与えられる音楽と園児の反応および音楽行動の起こる状況—(須藤 千佳)の観察資料に基づくものである。快く調査を受け入れてくださった、久昌寺幼稚園の海野講栄園長はじめ諸先生方に、心からの感謝の意を表します。